



SBIモーゲージ 新宿コールセンター

SBIグループが自己の信用を保ち、
信頼される金融グループを
目指して行ってきたこと

お客様に対して

信頼される金融グループとして

インターネットでは、財やサービスの提供者と消費者はお互いに顔を合わせることなく、取引は非対面で完結します。だからこそSBIグループは、インターネット金融サービスを提供する企業として、お客様に安心と信頼感を持ってお取引いただけるように、さまざまな配慮に努めています。

特に、個人情報を取り扱う会社においては、プライバシーマーク取得をプロジェクトとして推進するとともに、安全管理体制の構築や社内教育を通じて個人情報の保護を徹底しています。

また、非対面による金融サービスの提供を主体としている会社では、コールセンターやメールによる問い合わせ体制の充実を図り、お客様に安心して取引いただける環境を構築しています。

さらに、インターネット金融サービスの生命線であるシステムの安定運用については、最重要事項としてその確保に努めています。

イー・トレード証券

膨大な取引ボリュームに対応してシステム増強を前倒して進めるなど、システムの安定性向上に全社で取り組んでいます。オンライン専門証券のリーディング・カンパニーとして、より多くの投資家が安心して証券市場へ参加できる投資環境の構築に努めています。

www.etrade.ne.jp/



SBI モーゲージ

インターネットや電話を中心とした非対面で住宅ローンを提供しています。コールセンターやメールによる問い合わせ体制の充実を図り、安心してお取引いただける環境を構築しています。

www.sbi-mortgage.co.jp/



内部管理体制を強化
SBIグループとの取引をお客様に安心してご利用いただくために、情報セキュリティの重要性を経営の最重要課題と位置づけ、内部管理体制の強化に全社で取り組んでいます。

SBIホールディングス
取締役執行役員COO
兼 情報セキュリティ管理責任者(CISO)
澤田 安太郎



SBIホールディングス
ITソリューション部長
兼 情報システム管理責任者
坂本 匡弘



内部監査室
内部監査責任者
西川 保雄

システムの維持と内部監査で経営活動を支援
システムの安全性・可用性・機密性を維持するように努めています。また内部監査では、経営目標の効果的な達成に役立てることを目的として、合法性と合理性の観点から独立した公正な立場で、監査業務および経営活動の支援を行っています。

株主の皆様に対して

株主価値の拡大

SBIグループは設立以来、事業規模および事業領域を急激に拡大して成長を遂げてきました。これからも企業体質の強化と事業拡大のため、利益については内部留保を確保する一方、経営環境を鑑みて適正な水準の利益配当に努めます。

またSBIグループは、「グループ内上場企業*合算時価総額を3年後には3兆円、5年後には5兆円を目指す」ことを経営ビジョンとして明確に掲げています。上場各社の自己成長・自己増殖はもちろんのこと、未上場企業の株式公開によるグループ企業価値の顕在化のほか、M&A、合併会社の設立や戦略的提携等を通じ、株主価値(株式時価総額)の拡大を図ります。

*持分法適応関連会社を含む

積極的な情報開示

SBIグループでは、情報開示はインターネットの時代に相応しいものであるべきと考えています。この考えに則り、開示情報や経営情報および四半期ごとの決算情報などは、株主や投資家の皆様へ迅速かつ詳細にお伝えすべく、発表資料だけでなく発表模様の動画をSBIホールディングスのホームページで公開しています。また、半期ごとに事業報告書を株主の皆様へお届けすることによって、SBIグループに対する理解を深めていただくように努めています。

最近増加している海外の投資家への情報開示については、英語版アニュアルレポート、英語版ホームページなどで応えています。

より良い関係の構築

SBIグループは、情報開示だけでは株主の皆様とのより良い関係は構築できないと考えています。業績の内容や今後の戦略をわかりやすく説明し、コミュニケーションを深めていくために、経営者たちがダイレクトに語る動画ニュースをホームページで公開する一方、個人投資家向け説明会を半年ごとに東京・横浜・名古屋・大阪など全国主要都市を中心に開催しています。

SBIチャンネル

SBIホールディングスでは、事業の取り組みや今後の戦略などについて、経営者たちの考えをダイレクトに伝える動画ニュースを毎月配信しています。



www.sbigroup.co.jp/sbichannel/index.html

SBIホールディングス アニュアルレポート

英語版/日本語版を年1回発行。ホームページでもご覧いただけます。



www.sbigroup.co.jp/english/investors/disclosure/annualreport/index.html

SBIグループが自己の信用を保ち、
信頼される金融グループを
目指して行ってきたこと

従業員に対して

開かれた雇用機会

SBIグループでは採用において、プロフェッショナルとしての職歴だけでなく人間性を重要視した基準を設けています。従業員には、仕事ができ人間的にも優れた人物であることを求めますが、性別・学歴・国籍は一切問いません。2005年に開始した新卒採用活動においてもこの基準に照らし、多様なバックグラウンドを持つ将来性の高い人材を多数採用しました。また、社内登用によって派遣社員や契約社員から正社員への道が拓かれているのもSBIグループの特長です。優秀な人材に対しては、本人のやる気と実績次第で積極的に雇用機会を提供する姿勢を徹底しています。

公正で意欲に応える処遇

従業員の処遇は成果のみならず、結果にいたるプロセスをも重視しています。その評価は、半期ごとの目標達成度をもとに、経験、能力、業績への貢献度等に応じて総合的に判断して決定され、「功ある者には禄を与え、良識・見識ある者には地位を与える」という方針を貫いています。

また、ストックオプション制度を採用し、従業員の経済的厚生と事業会社の成長を連動させることで、健全な労働意欲の向上を醸成しています。



SBIホールディングス
総務人事部長
本橋 直樹

従業員のやる気を後押しするために
SBIグループでは、従業員が希望する仕事に取り組むことが仕事の付加価値を高めることにつながると考えています。したがって、従業員のやる気を後押しするために、役員立候補制度やキャリアチャレンジ制度などが設けられており、自らグループ会社の役員や希望する職種に就く道が拓かれています。



総務人事部 マネージャー
辻 隆斗

社内コミュニケーションの促進

企業規模が大きくなり、従業員数が1,000人を超えた今でも、SBIグループではできる限り直接的な社内コミュニケーションを心がけ、経営ビジョンや現状についての情報を共有できるように努めています。イントラネットの活用はもちろんのこと、毎月の全社朝礼では経営トップが自身の考えを従業員に直接語りかけています。また、経営トップと従業員のコミュニケーションの場として、「北尾塾」と呼ばれる講習会、マネジャークラスとの懇話会が適宜開かれています。

さらに、経営トップは自らの実践を通じて到達した経営論・企業観などについて積極的に執筆し、書籍として出版しています。これにより、従業員の人間学や経営学における教育向上、社内における一体感の醸成、相互の意思疎通を図っています。

進化し続ける経営
SBIグループそのビジョンと戦略
北尾吉孝 著 / 東洋経済新報社



SBIホールディングス
法務部長
藤田 俊晴

企業活動の信頼性向上に努める
研修による役職員の法令遵守意識の醸成や、トップマネジメントの立案する経営戦略の適法な遂行を通じ、企業活動の信頼性向上に努めています。



法務部 マネージャー
稲垣 浩平 河内 直也